

## 【1】 5年後の「達成目標」とその「姿」

研究スタイルの変革により世界屈指のイノベティブな大学として、新しい社会創造に貢献

- ・コアファシリティ機構(仮称)を中心に強化・拡大された全学共用体制
- ・地域連携ネットワークの拡大
- ・技術職員的能力向上と活躍促進

→ 研究力強化、効率化に寄与

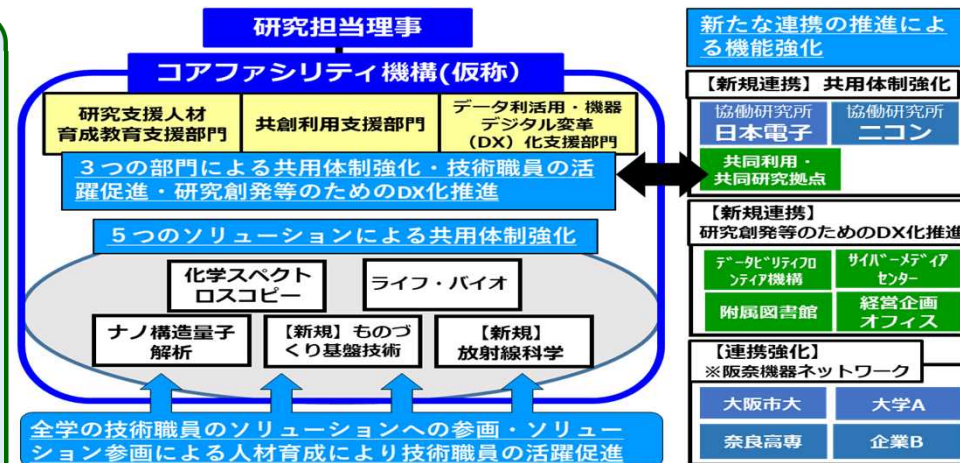
## 【2】 これまでの取組と解決すべき課題

### これまでの取組

- 機器共用システムの構築  
設備サポートセンター事業 (2011-2013)、先端研究基盤共用促進事業 (2017-2019)
- 部局間連携・地域連携ネットワークの構築  
先端研究基盤共用促進事業 (2017-2019)、阪大ソリューション方式 (2017-) SHARE事業 (2019-2020)
- 戦略的機器導入、計画策定・活用  
令和2年度第2次補正予算事業・第3次補正予算事業 (2020,2021)  
本部事務機構との連携による機器導入の検討
- OUDXイニシアティブ始動 (2021-)

### 解決すべき課題

- 本学の強み・特色である共同利用・共同研究拠点等との連携強化
- 自動化・遠隔化により収集されたデータの活用が限定的
- 技術職員の人手不足、能力拡大の機会への欠如



大阪大学コアファシリティ構想 工程表

事業計画		R3	R4	R5	R6	R7
研究DXの中核となる高度な機器共用体制の構築	コアファシリティ体制の充実・強化	準備	機構設置	強化	検証	充実
	測定データ集約配信の自動化	構築	運用開始		データ活用推進	
	共同利用・共同研究拠点との連携、阪奈機器ネットワークの拡大	拠点/阪奈以外へ拡充		全拠点へ拡充/全国へ拡充		
	Electronic Lab Notebook(Chem-Office)導入	導入		実験効率化/研究公正強化		
研究DXを活用した産学共創活動の推進	企業との協働研究所や共同研究講座との連携強化	連携先拡大		連携推進 (随時拡大)		
	企業との技術交流及び地域企業への技術指導等	選定		交流・指導 (対象拡大)		
研究DXにより集約されたデータの活用	最先端AI・ビッグデータ処理技術に基づく研究データ高度利活用	検討		データ収集		
	データマッチングに基づく異分野融合研究及び新分野創成	手法開発		システム拡充	データ活用	
技術職員的能力向上と活躍促進	教員、URA及び技術職員の一体的配置による保有技術の高度化と第2技術習得促進 (講習・教育プログラム)	選考/配置		技術の高度化	評価	
	国内外機関への技術研究制度を活用した技術力向上	準備		技術研修の実施	検証	
	認証制度の創設、顕彰制度の活用によるモチベーション向上	新規制度の設立		新規制度		大阪大学賞への推薦
	関西女性技術職員ネットワークとの連携によるダイバーシティ拡大	準備		連携開始	検証	拡充

## 【3】 目標達成に向けた戦略

### 研究DXの中核となる高度な機器共用体制構築

- ・測定データの集約配信の自動化
- ・共同利用・共同研究拠点等との連携、阪奈機器ネットワークの拡大
- ・Electronic Lab Notebook (Chem-Office)導入

### 研究DXを活用した産学共創活動の推進

- ・企業との協働研究所や共同研究講座との連携強化
- ・企業との技術交流及び地域企業への技術指導等

### 研究DXにより集約されたデータの利活用

- ・最先端AI・ビッグデータ処理技術に基づく研究データ高度利活用
- ・データマッチングに基づく異分野融合研究及び新分野創成

### 技術職員的能力向上と活躍促進

- ・教員・URA及び技術職員の一体配置 (講習・教育プログラム)
- ・技術研修制度を活用した技術力向上
- ・認証制度の創設・顕彰制度活用
- ・関西女性技術職員ネットワークとの連携